

水と緑とひかりの村
にしはら

西原村

Kumamoto Nishihara



Contents

■ 自然・観光	4	■ 環 境	26	■ 村のあゆみ	40
■ 農 業	14	■ 交通安全・防犯	30	■ 西原村合併50周年記念式典	44
■ 畜 産	16	■ 防 災	32	■ 村章・村花・村木・村鳥	46
■ 商工業	18	■ 文化・伝統	34	■ 西原村民憲章・西原音頭	47
■ 福 祉	20	■ 行 政	36	■ 村の位置・地勢	48
■ 教 育	22	■ 議 会	38		



発刊にあたって

水と緑とひかりの村にしはら。2010年は山西・河原村が合併して50周年の記念すべき年であります。合併以来の半世紀を振り返ってみますと紆余曲折はありましたが着実に歩みを進め、諸般にわたり大きく進展をみることができました。本村は熊本都市圏の東部に位置し、自然豊かな村であります。このような貴重な自然環境を維持保全しながら、子や孫の時代にも引き継ぎ、より豊かな共生協働の福祉の村づくりに今後も邁進してまいりたいと存じます。村勢要覧を発刊するにあたり、心新たに全村民が協和し、西原村の輝かしい未来に限りない希望をはせてご挨拶といたします。

西原村長 日置 和彦

A Word from the Mayor

Nishihara is a village blessed with natural beauty and light. This year, 2010, marks the 50th anniversary of the merger between Yamanishi and Kawahara villages into what is now Nishihara. Looking back a half century into our past, I see that it was filled with complications, yet over the years we have made steady and significant progress toward a brighter and better future. We have fought to maintain a balance between industry and nature, progress and tradition. Our past and our future. Preserving this balance and preserving the beauty that surrounds us has been essential to the creation of a home where people of all ages can live in peace and harmony. We look forward to the future, which we as a community have shaped into something better. To all my villagers, thank you for your hard work and your kind spirit. If you are new to Japan or to this region, I hope that this handbook will serve to further your interest in Nishihara Village and Japanese culture. Please accept my warmest welcome to Nishihara!

With Blessings for a Bright Future,

俵山

西原村のシンボルとして阿蘇外輪山の西側に位置する標高1,095メートルの俵山は、米俵を重ねたような山の形からその名が付いたと言われています。一帯には四季折々の山野草が咲き、登山に訪れた人々の目を楽しませています。また、晴れた日は熊本市街や遠くは有明海まで展望でき、春先には草原の野焼き、登山のイベントを催しています。



白糸の滝

まるで白き糸のように高さ20メートルから水が流れ落ち、別名「寄姫の滝」とも呼ばれ、その昔、ここを訪れた武士が心奪われた美しい娘が大蛇だったという伝説が残っています。平成22年度には「熊本県平成の名水百選」として認定され、澄んだ水と豊富な水量をほこっています。夏には暑さをしのぐため多くの人が訪れ、涼を求める人たちのオアシスにもなっています。

【糸舞季】

平成18年5月に完成した白糸の滝交流館「糸舞季（しぶき）」は森林の香りと川のせせらぎにつつまれ、一帯は真夏でも涼しくマイナスイオンたっぷりで川遊びが楽しめます。
豊富な湧水を使った流しそつめんや地元産「滝米」の手作りおにぎりも味わえます。
なお、滝公園内への入場の際に清掃協力金100円をお願いしています。



【滝収穫祭】

毎年10月は滝交流農園で収穫祭が行われます。6月に田植えまつりを開催した田畑で稲刈り作業やからいも掘りを体験します。



俵山交流館 「萌の里」

俵山のふもとにある萌の里。地元で収穫された農産物や手づくりの万十、漬物などの加工品が並び、地元作家の陶器・工芸品が展示販売されています。高い天井と広々とした木造の建物で、周辺には緑に囲まれた緩やかな丘が広がり、俵山を眺めながらゆっくりとした時間を過ごすことができます。都市住民との交流の拠点として位置付けられたこの施設には、常に村内外から多くの人が集まり、活気に満ち溢れています。



らくのうマザーズ 阿蘇ミルク牧場

酪農をテーマとした体験型テーマパークの阿蘇ミルク牧場は、西原村の広大な自然の中にある施設です。実際に乳搾りやパン・ソーセージづくりが体験でき、楽しみながら乳牛の飼育や乳製品の加工などについて学べます。ヤギやウサギなどのいろいろな動物とふれあうことができ、安心して新鮮な素材にこだわったレストランの自然食バイキングも自慢です。



青少年の森 キャンプ場「風の里」

熊本市内から車で40分、大峯山の山頂にあるキャンプ場です。展望台に登ると熊本市街、晴れた日には有明海と雲仙普賢岳を眺望することができます。日暮れとともに美しい夜景を望むことができます。県産材を用いた9棟あるロッジは、木の香りが溢れる落ち着いた室内となっています。外にもオートキャンプサイト、常設テント、野外ステージ、アスレチックジムなどの施設が充実しており、オールシーズン楽しめます。



ゴルフ場

西原村には3つのゴルフ場があり、県内のみならず、県外からの利用者も多く、人気のコースとなっています。毎年10月下旬には、村おこしオープンゴルフ大会が行われ、多くの参加者で賑わいます。

【阿蘇グリーンヒルカントリークラブ】

風力発電の風車群を眺めながらコースを回ることができ、熊本市内から車で40分の場所にあります。



【肥後カントリークラブ】

起伏の穏やかなコースで、松や杉などで各ホールともセパレートされています。



【グランドチャンピオンゴルフクラブ】

1999年くまもと未来国体の会場となったゴルフ場で、アウトコースはフラットで、インコースは高低差があります。



野菜

西原村は、阿蘇外輪山西麓に広がるなだらかな台地に位置します。畑を主とするまとまった耕地があり、地質は火山灰土壌で作物の栽培に適しています。県内作付面積第2位の甘藷や、国の指定産地を受けている里芋などが栽培されており、村を東から西へ流れる川沿いには豊かな水田が拓け、美しい農村風景を形成しています。

これらの川の源流である広大な野山には、阿蘇の象徴ともいえる草原が広がり、牛の放牧が行われています。また、イチゴやトマト、メロンなどの施設園芸も行われる西原村では、熊本市近郊として発展しながらも、農業を中核とする村づくりを展開しています。

幹線道路沿いには農産物直売所も立ち並び、四季折々に自然の恵みである旬の味が楽しめます。

甘藷

サツマイモは「かんしょ」「くらいも」とも呼ばれます。豊かな大地で育まれたからいもは、「西原かんしょ」として村の代表的な農産物です。健康・美容食としての人気が高く、主に岐阜、大阪、広島、北九州方面へ出荷しています。収穫後には常温13℃で約3カ月程度貯蔵されることで、独特な甘みが生まれます。繊維質とビタミンが豊富な「西原かんしょ」は村の自信作です。



里芋

西原村の里芋は、生育に適した水はけのよい火山灰土壌で栽培され、畑地の輪作作物、水田の転作作物として定着しており、国の指定産地を受けています。独特の「ぬめり」の成分には消化促進、免疫向上作用などがあり、健康にも良く、ほんのり甘くまろやかで、和洋いずれの料理でもおいしくいただけます。



しいたけ

西原村で栽培されるしいたけは、冬越し前の年間で最も栄養を蓄えているクヌギを切り出し、原木に穴をあけ、しいたけの菌を植え込む栽培方法がとられています。

原木のしいたけは、クヌギなどの硬い木をゆつくりとした時間のもと自然の力によって分解させ、しいたけを発生させているので、しいたけの本来の味であるプリプリとした食感や香りは、森の風味そのものです。



畜産

西原村では主な畜産として、牛・豚の肥育、酪農、養鶏を行っています。その中でも特に、阿蘇地域で飼育されるあか牛は、耐寒性・耐暑性に優れ、性格がおとなしく放牧に適していると考えられています。野焼きが終わり草原に牧草が芽吹くころになると、あか牛が放牧され、夏の時期を広大な原野で過ごします。そして、晩秋から翌年の春にかけては、畜舎で飼育されます。大自然の中をのびのびと育ったあか牛は、肉質は赤身が多く、適度の脂肪分も含み、うま味と柔らかさ、ヘルシーさも兼ね備え、タンパク質とビタミンもたっぷりです。また、酪農家の愛情を受けて育った乳牛からとれた生乳は、おいしい乳製品に加工され、牛乳やソフトクリーム、ヨーグルトとして西原村で味わうことができます。



Commerce and Industry

Nishihara Village is conveniently located only 10 minutes from the Kumamoto Airport, on Routes 206 and 28. This road serves as a popular weekend route for westward travelers coming from Kumamoto City. As a result, the road is lined with a series of shops and particularly good restaurants. Due to its proximity to the airport and cheap land, Nishihara has been a popular destination for domestic companies to build factory warehouses and processing plants. In order to stem the growth of these complexes, the "Kumamoto Technopolis Plan" was put in place, limiting the construction of industrial buildings to two areas, the Komori Industrial Complex and the Toriko Industrial Park. Outside of these two areas, Nishihara remains a picturesque example of the Japanese countryside.

西原村の中心部より北には、熊本テクノポリス計画に基づき造成された「鳥子工業団地」「小森工業団地」が広がっています。阿蘇くまもと空港から車で10分、九州縦貫自動車道インターにも近く、交通アクセスの利便性を備え、その優位性と独自の技術力を活かし、全国にネットワークを持つ企業が進出しています。また、近年、環境・交通の良さから、村を東西に貫く阿蘇と熊本市街を結ぶ県道沿いには住宅が立ち並ぶようになり、商店や飲食店が相次いで出店し、活気を生んでいます。

物流に欠かせない陸・空への恵まれた立地条件と自然環境を効果的に利用し、地場産業の育成はもとより、企業の誘致を図りながら、異業種交流を進めていくことで情報を共有し、地域経済の拠点づくりを促進していきます。

アートキャンディ(株)



(株)堀場正ステック



ナカヤマ精密(株)



お菓子の香梅



(株)東京カソード研究所



(株)インターナショナル・ケミカル



テクノデザイン(株)



(株)共和



(株)三井電器



エーザイ生科研(株)



マルキン食品(株)



住み慣れた村で安心の生活 共に支え合う地域社会づくりを目指します



健康づくり

近年、日本中が生活習慣病のために、「生活の質」「医療費」「介護保険」と大変な問題を抱えていることから、40歳以上の方を対象に「特定健診・保健指導」を実施しています。また、小学生を対象とした親子健診、健康教室を実施したり、若い世代から糖尿病などの生活習慣病予防事業を実施していき、将来の介護予防・認知症予防につながるための取り組みを進めています。

障がい者福祉

西原村では「たんぼハウス」を中心として、障がいをもった方の自立支援を目的に活動しています。皆がそれぞれのペースで農作業や清掃作業などを行い、陶芸教室やキャンプなどを開催して、保育園児や小・中学生とも交流を深め地域に根ざした活動を進めています。

障がいの有無に関わらず、誰もが気軽に立ち寄れる地域交流の場としても開放されています。

高齢者福祉

いくつになっても、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、支え合いができる村づくりを目指して活動に取り組んでいます。特に「認知症対策」に力を入れており、元気高齢者の「デイサービス」や地域座談会などで、認知症に関する知識と予防等について情報を提供しています。

自分たちに何ができるかを皆で話し合うことで、支え合いの意識をたかめるような機会を設けています。

児童福祉

にはら保育園内に併設されている「子育て支援センター」就学前の幼児とその家族が気軽に訪れ、同じように子育て家庭への育児支援、子育てサークルの活動支援を行い、地域全体で、子どもが健やかに育つ環境づくりを支援しています。

また、働きながら子育てをしている保護者の方が、安心して働けるように放課後や長期休暇中に児童を預けられる「学童クラブ」という取り組みも行っています。宿題をしたり、指導員と学校での出来事を話したり、友達と遊んだり、放課後から帰宅までを安全に過ごせる、家庭に代わる存在となっています。

学校教育

西原村には、中学校が1校、小学校2校があります。学校教育は、生涯にわたる教育・学習の基礎であるとともに、人格形成の上でも大切な時期です。また、村の将来を担う子どもたちへの教育は、村の発展のために大きな役割を果たします。西原村では、「にじはらっ子元気プラン」を作成し、子どもたちが確かな学力を身に付け、心身ともに健やかに育つよう取り組みを進めています。



Education

There are two elementary schools and one junior high school currently located in Nishihara. Once they reach high school, students usually attend school in the nearby town of Ozu. The village schools fall under the jurisdiction of the board of education, and all schools strive to instill in their students a strong academic and social foundation.

生涯学習・成人教育

大人になっても趣味や娯楽、ライフワークとして、何か新しいものを学んだり、その学んだ成果を地域社会などへ還元したいと思う方は多いのではないのでしょうか。西原村では、多彩な生涯学習講座の開催、成人教育の場として「女性セミナー」や「寿生大学」などを企画運営しています。また、健康づくり・仲間づくり・地域づくりを目的に、季節ごとにスポーツ大会を開いたり、スポーツ団体への支援を行っています。



Lifelong Learning

Education in Nishihara continues into adulthood. The local community center offers a variety of courses for adults, including Tai Chi, ballroom dance, Yoga, English, and a monthly Women's Seminar. In addition, there are local sports teams that village members can join. These classes and activities improve the quality of life for all villagers, encouraging members of the community to live healthier, happier lives.

保育

村内唯一の保育園（にしはら保育園）は、平成15年に万徳・門出保育園が統合され誕生し、現在の定員は180名です。特別保育事業として、延長保育、一時預かり保育も行っています。にしはら保育園では以下の保育目標を掲げ、未来に輝く子どもたちをお預かりしています。

保育目標

- 一、明るく元気な子ども
- 二、思いやりのある子ども
- 三、話の聞ける子ども
- 四、挨拶のできる子ども
- 五、物を大切にできる子ども



Nursery School

In 2003, the two nursery schools in Nishihara merged into one preschool. Iku Yasushi has a capacity of 160 students and includes day care, educational, and special-needs services. Iku services. Iku Yasushi strives to teach its students basic speaking and listening etiquette while keeping the children happy and healthy, forming the foundation for a bright future.



21世紀は「環境の世紀」といわれています。非常に大きなテーマではありますが、西原村では新エネルギービジョンを策定し、自然エネルギーを利用した環境にやさしい村づくりに取り組んでいます。その象徴的なものとして、平成17年2月、依山中腹に10基の風車を擁する風力発電所「阿蘇にしはらウインドファーム」が運転を開始しました。阿蘇山系独特の気候変化により、山々からの風を多く受ける西原村特有の地形を活かしたものです。

そして、発電所を運営する企業の協力のもと、地元小学生を対象に平成17年度から毎年、環境体験学習会「風の子塾」を開催しています。次世代を担う子どもたちにこのような学習の機会を設けることで、自然エネルギーを活用した持続可能な循環型社会の実現を目指していきます。

さらに村内では、にしはら保育園や生涯学習センターといった公共施設に太陽光発電システムを設置しています。地域の実情に応じた新エネルギーを積極的に導入しながら、住民と一体となつて、人と自然の共生によるむらづくりを進めていきます。

Sustainability

In 2005, Nishihara and the surrounding area were officially ushered into the 21st century sustainability movement with the installation of 10 windmills on the Tawarayama mountainside. The place is aptly positioned to harness the ample wind power, which blows through the Aso region. The company that runs this power station works with the nearby elementary school to teach children the fundamentals of environmental protection and sustainability.

In addition, Nishihara Village has installed PV systems, or solar panels, into several public facilities, such as the nursery school and the community center. The administration continues to work with local residents in reducing its carbon footprint on the environment. Today, the Tawarayama windmills remain a beautiful and iconic symbol of the village and its dedication to environmental sustainability.



野焼き

春の訪れをつげる野焼きは、雑草が繁茂するのを防ぎ、原野の害虫駆除と草地の再生を促すために行われます。西原村の原野は約1,050ヘクタールあり、ユウスゲ、オキナグサ、マツムシソウなど希少植物が植生しており、これらの保護のために欠かせないものです。地元住民とボランティアの方々の協力で野焼きの作業を行い、次第に山々が緑のじゅうたんを敷いたように覆われていきます。

また、3月下旬には全国的にもめずらしい夜の野焼き、「山ノ神まつり」を開催しており、日没とともに火がつけられると、暗闇の原野を縦横に炎が走り、夜空を赤く染めます。その壮大な光景を一目見ようと県内外から大勢の観光客が訪れます。



Facilitating the Environment

To encourage the regeneration of healthy grasses and local vegetation and to help prevent the growth of weeds and pasture pests, the grassy hillsides are burned every year in late March. Fire marshals, many of whom are volunteers from the community, partake in this burning ritual, which covers about 1050 hectares of land around Nishihara.

Part of this tradition takes the form of the beautiful Mountain Festival, which takes place at night. As the sun sets, the grasses on the mountain are set aflame, as though touched by the fires of the sun. Many tourists from outside the prefecture come to catch a glimpse of this spectacular scenery.



道路愛護活動

道路愛護活動は村内地区ごとにさまざまな形で行われていますが、村全体で『道路品評会』という村独自の行事があります。

この『道路品評会』は、毎年春と秋に行われており全長約120キロメートルある村道等を地区ごとに草刈・清掃を行い、得点をつけて道の美しさを競い合います。

『道路品評会』については昭和26年以降からの資料が残っていますが、もつと以前から行われているという話もあります。

長い歴史があるこの活動に対し、平成17年度に国土交通大臣より『手作り郷土（ふるさと）賞』地域活動部門』を受賞しました。

地域住民が道路清掃という一つの目的を持った活動を行うことで地区内での交流が生まれ、住民相互の親睦が深まることで地域づくりにも寄与しています。この『道路品評会』による清掃作業は地域コミュニティの構築に重要な役割を担っており、今後も地域の伝統として受け継がれる行事の一つです。

Cleaning the Streets

Each village or township has a different way of keeping its roads clean and clear of garbage. In Nishihara, villagers partake in a "Street Fair" twice a year in autumn and spring. Along over 120 km of village roads, grasses are mowed, trash is collected, and streets are swept by at least one member of each household, each assigned a particular segment of road. The tradition officially began in 1951, though many believe that it goes back even further. In 2005, the Japanese Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism awarded Nishihara the Regional Community Activity Award for its ongoing traditional beautification efforts.

And what do the citizens of Nishihara get in return for their hard work? They are rewarded with stronger community ties, deeper friendships, and pride for contributing to village life.





南阿蘇観光の玄関口でもある西原村は、道路網の整備が進み、交通量が年々増加しています。地域で発生する交通事故などを未然に防ぐために、交通指導員や母の会が中心となり、交通安全指導や街頭指導、パトロールを行い、西原村から1件でも交通事故が減らせるよう取り組んでいます。

また、地域の安全を守るためセーフティパトロール隊を結成しています。防犯パトロールや青少年の非行防止活動を行うほか、子ども見守り隊とともに、児童・生徒の登下校時の安全を確保するため活動しています。



消 防

西原村消防団は8つの分団で構成され、現在団長以下255名で組織されています。日々の訓練や地域の警戒などを行いながら、火災時の消火活動はもとより、自然災害発生時などにはその統制ある組織力で、村民の生命・身体・財産を守ります。消防業務は高遊原南消防署が管轄し、消防団と消防署が互いに協力しながら、住民の方が安心して暮らせるように活動しています。



未来へ受け継ぐ 伝統文化（祭り）

科学技術が発達した現代と比べ、生活基盤を自然に頼っていた時代には、人の力ではどうにもならない恐怖や不安から身を守るために神仏への信仰が盛んでした。西原村でもさまざまな祭りや信仰が伝承されています。

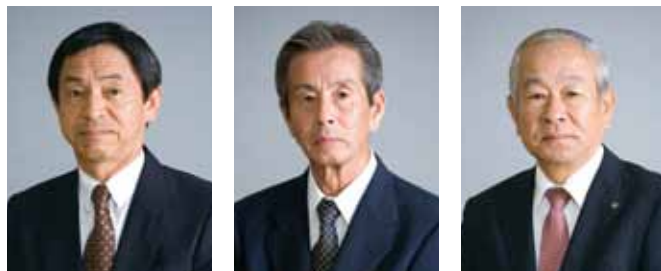


お法使祭り
現在の西原村河原地区、益城町、菊陽町の12集落にまたがる祭りです。毎年10月30日に行われ、神様が集落を1年交代でまわります。祭りの当番の1年間は鳥の殺生が禁じられています。これには神様が降臨された時に霧で迷い、鶏の鳴き声に助けられたという言い伝えがあります。この祭りが有名なのは、祭祀圏が広いこと、賑やかなことが好きな神様ということ。田畑や道に神輿を投げたりするからです。

八王社遷宮祭

江戸時代中期の大水害により、布田地区にあったお宮が危機的な状況となりました。そこで、50年に1度、神様に布田地区へ里帰りしていただく約束で、宮山地区の現在の場所に移されたことで、祭りがはじまったそうです。最近では、昭和56年に250年祭、平成18年には275年祭が行われています。25年周期に改めたのは、伝統の継承のためです。





教育長 曾我 敏秀 副村長 坂本 武 村 長 日置 和彦



人口の増加や道路網の整備といった
住環境やそれらを取り巻く社会情勢の
変化により、住民の価値観、生活ス
タイルも変わりつつあり、住民が行政に寄
せる要望も多様化しています。その要望に
柔軟かつ迅速、的確に対応するため、組
織の合理化や職員の研さんに努め、効
率的で効果的な行政運営を進めています。
村の主役は住民一人ひとりで、住民
の声を最大限に尊重し、住民の視点に
立った村づくりを進めていくために、行
政運営のさまざまな分野で、積極的に住
民と行政が協働することで、活力ある自
立した村づくりに取り組んでいます。

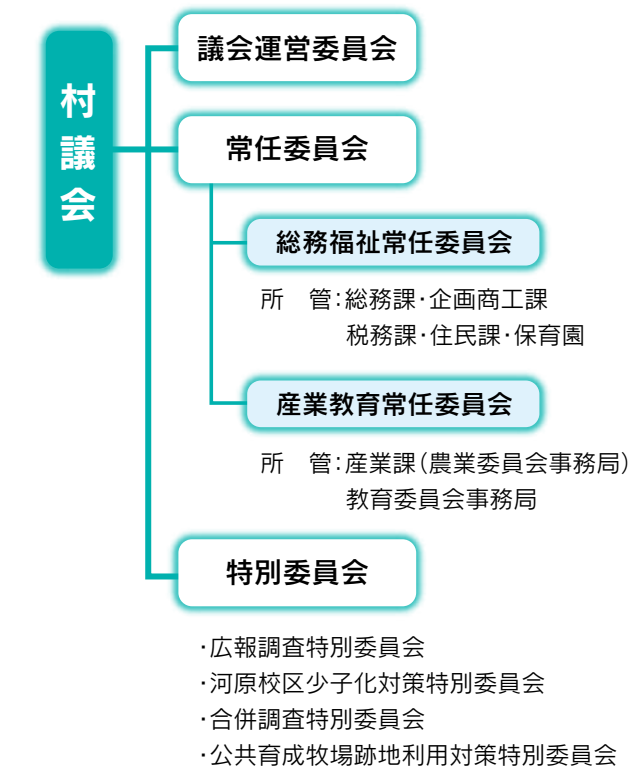


Government

The Nishihara municipal building houses everything from the mayor's office to the board of education to tax and immigration services. As you enter the building, there is a display case showcasing ceramics and origami, the work of some local villagers. The office is an open space where the staff are friendly and helpful, working to administrate to an ever-evolving and close-knit public. For the Nishihara government, as for any representative government, the task of faithfully representing the voices of its citizens presents new challenges every day. This administration strives to listen to the voices of the public, and considers this its most important task.



[村議会の組織図]



Assembly

Japanese municipalities are generally run by a mayor and a unicameral assembly. Nishihara is no exception. The Nishihara villagers themselves. The Assembly holds regularly scheduled Village Assembly consists of 12 elected representatives from among meetings four times a year to discuss matters such as the budget, village ordinances, and other important policy matters. In addition, the Assembly can hold occasional emergency meetings regarding urgent matters. In order to keep the villagers informed, a copy of each meeting. the meeting minutes is distributed to each household following Beginning in the 1990s, the Japanese government began to undergo a significant decentralization process. The different levels of government periodically shift their responsibilities, usually in the direction of local government bodies. As a result, local contributes to the preservation of unique local cultures and governments are growing in importance and authority, which traditions.



むらのおゆめ

【歴史年表】

昭和35年	● 9月1日、町村合併により西原村誕生 (阿蘇郡山西村と上益城郡河原村)
昭和36年	● 中学校統合により、西原中学校となる 役場庁舎落成(6021㎡) 防火水槽40㎡建設
昭和37年	● 中学校校舎落成(木造2階建1、876㎡) 7月1日、農業共済、村に移譲 山西小学校校舎移転
昭和38年	● 西原中学校特別教室3棟落成(木造平屋建524㎡) 御法使まつり(瓜生迫地区)
昭和39年	● 西原中学校寄宿舎落成(木造平屋144㎡) 御法使まつり(秋田、土林地区) 護王峠学校林設定(11.96ha)
昭和40年	● 西原中学校体育館落成(鉄骨造8008㎡) 御法使まつり(星田、門出、田中地区) 慰霊の塔建立 小型動力ポンプ購入
昭和41年	● 河原・山西農協合併により西原村農業協同組合となる 万徳保育所開設 定員60名 (建物面積297.45㎡・総事業費6、000千円)
昭和42年	● 河原小学校本館落成(鉄筋2階建延638㎡) 山西小学校旧校舎解体、東校舎移転 門出保育所開設、定員60名(旧河原小学校校舎) 木造平屋建320.41㎡ 基幹農道整備事業(西原・益城線)着工
昭和43年	● 空港関連県営圃場整備事業着工(108ha) 西原村中央公民館落成(鉄筋2階建688.25㎡) 役場庁舎増築(木造平屋建1塔延153㎡) 山西小学校体育館竣工(鉄筋造495㎡) 山村振興法に基づき山村振興地域の指定を受ける 農業構造改善事業により小牧地区圃場整備事業着工 56ha
昭和44年	● 農業構造改善事業により畜産センター落成 (鉄骨造1、816㎡) 過疎地域振興緊急措置法に基づき過疎地域指定を受ける 農業振興地域整備計画作成 小牧地区圃場整備事業竣工
昭和45年	● 河原小学校体育館落成(鉄骨造367㎡) 合併10周年式典
昭和46年	● 河原小学校プール竣工 西原中学校プール竣工 熊本県公共成牧場開設 空港関連県営圃場整備事業竣工 熊本県種雄牛センター開設 (総面積51ha、建坪2、603㎡)
昭和47年	● 熊本県の野菜指定産地(スイカ・里いも)を受ける 過疎基幹農道整備事業(田中・高遊線)着工 役場、消防自動車購入 水前寺・小森線村内貫通
昭和48年	● 村道万徳・出ノ口線など主要道路2線改良・舗装 西原村農業協同組合本所竣工 村道門出・滝線など主要道路3線改良・舗装 水前寺・小森線県道昇格(現・堂園小森線) 山西小学校庭園完成 御法使まつり(瓜生迫地区)
昭和49年	



大規模林道全線開通



木山川水系大災害



御法師まつり



水前寺小森線村内貫通



山西河原合併記念碑

昭和50年	● 広域農業開発事業着工(草地改良26.33ha) 西原村民グラウンド完成 大規模林道着工(西原・御船間) 河原小学校庭園完成 山西小学校新校舎竣工(鉄筋2階2、166㎡) 山西小学校運動場完成(12、647㎡) 過疎基幹農道整備事業(田中・高遊原)竣工 大切畑ため池高上工事竣工(貯水量85万㎡) 寿生大学開校
昭和51年	● 御法使まつり(秋田、土林地区) 西原中学校寄宿舎新設・校長宿舍68㎡竣工 村民グラウンドナイター設備完成 (6基) 御法使まつり(星田、門出、田中地区) 主要地方道、熊本・高森線俵山開通 酪農近代化指定を受ける 肉用牛生産振興地域指定を受ける 国の野菜指定産地(里いも)を受ける 基幹農道整備事業(西原・益城線)竣工 西原村中央簡易水道竣工 万徳保育所増設(定員90名) 揺ヶ池鳥居建立
昭和53年	● 河原小学校東校舎改築 河原小学校新プール竣工 高遊原消防組合に加入 広域農業開発事業竣工(宮山地区草地改良他) 小型動力ポンプ積載車購入 新農業振興地域整備計画策定
昭和54年	
昭和55年	● 西原中学校校舎および食堂新築工事竣工 合併20周年式典 農業地域定住促進対策事業地域指定を受ける 重点作物等生産振興地域指定を受ける 農村地域工業導入促進法に基づき農村地域工業導入地域指定を受ける 防災行政無線施設整備事業竣工 西原中学校庭園完成 文化センター開設 第3期山村振興農林漁業対策事業地域指定を受ける 八王社遷宮250年祭開催 南阿蘇農業共済組合広域合併 西原村国土利用計画策定 大規模林道 西原・御船間一部供用開始 山西小学校増築竣工 西原村トレーニングセンター竣工 白山姫神社の神楽が復活(34年ぶり) 西原村の市外局番が3ケタになる 西原村振興計画基本構想策定 村営簡易水道給水施設拡大事業完成 「熊本自然100選」に白糸の滝と揺ヶ池(お池さん)選定される
昭和56年	
昭和57年	
昭和58年	
昭和59年	
昭和60年	● 第36回全国植樹祭御出席による天皇陛下行幸 木山川水系に集中豪雨(被害額約7億円) 西原村の村花(のぎく)・村木(どんぐり)・村鳥(きじ)選定 小野地区小規模圃場整備事業竣工 第2次広域農業開発事業竣工(出ノ口草地改良) 村営河原団地第1期工事12戸完成 西原村工業用水道完成 御法使まつり(瓜生迫地区) 鳥子工業団地造成完成(25ha) 西原村役場庁舎完成 村営河原団地第2期工事12戸完成
昭和61年	
昭和62年	

昭和62年	●新農業構造改善事業指定を受ける ●大規模林道 西原く御船間全線開通 ●御法使まつり(秋田、土林地区)
昭和63年	●木山川水系大災害(被害額約50億円) ●農産物集出荷貯蔵施設竣工
平成元年	●御法使まつり(星田、門出、田中地区) ●新農業構造改善事業育苗施設完成 ●小牧地区圃場整備事業竣工 ●鳥子工業団地進出協定完了
平成2年	●西原村構造改善センター完成 ●榎鶴地区圃場整備事業竣工 ●合併30周年式典 ●地籍調査事業着手
平成3年	●西原村民体育館竣工 ●第1回俵山登山開催 ●西原夢運太鼓結成 ●県営圃場整備事業(宮山地区)着工 ●議会だより第1号発行
平成4年	●県営農免道路整備(布田鶴線)竣工 ●県営農地保全事業(化粧塚地区)竣工 ●夢運太鼓海外公演(セルビア万博他) ●甘藷部門20周年記念式典 ●西原村地域福祉センターのぎく荘竣工 ●青少年の森「風の里」竣工 ●地域施設整備事業 ●農産物処理加工施設150㎡ ●農用地有効利用モデル集落整備事業(六反田)区画整理4.3ha ●県営宮山地区圃場整備事業(袴野・宮山)区画整理34.5ha ●農免農道事業(布田鶴)区画整理70ha
平成5年	●新山村振興地域指定(河原地区)
平成6年	●村道秋田灰床線道路整備事業着手(県代行事業) ●農地保全整備事業(化粧塚)区画整理42ha ●河原小学校体育館落成
平成8年	●農用地有効利用モデル集落整備事業(布田小鶴)7ha
平成9年	●山村振興農林漁業特別対策事業(滝)区画整理2ha
平成10年	●山西小学校体育館落成
平成11年	●御法使まつり(瓜生迫地区) ●西原中学校特別教室棟落成(パソコン教室・図書室) ●くまもと未来国体開催(ゴルフ競技) ●「萌の里」オープン
平成12年	●御法使まつり(秋田、土林地区) ●農地保全整備事業井出ノ元排水路整備40ha ●阿蘇らくのうパーク(現 ミルク牧場)オープン ●放課後児童クラブ開所
平成13年	●御法使まつり(星田、門出、田中地区) ●河原小学校管理教室棟落成
平成14年	●過疎基幹農道整備事業(秋田原)農道整備41ha ●単県農道整備事業(新所)農道整備3ha ●阿蘇地域農業協同組合広域合併 ●基盤整備促進事業(出の口)用水路改修16ha ●ため池等整備事業(下小森)ため池整備15ha ●第1回冬あかり開催
平成15年	●山西小学校特別支援学級棟落成 ●西原村公園環境マスタープラン策定 ●県営ふるさと農道緊急整備事業(小野地区)農道整備32ha ●県営圃場整備事業(小森・鳥子)区画整理50.5ha ●俵山トンネル開通 ●村道秋田灰床線開通(県代行事業) ●にしはら保育園開園 ●子育て支援センター開所



50周年記念式典



西原村誌発行



阿蘇にしはらウインドファーム運転開始

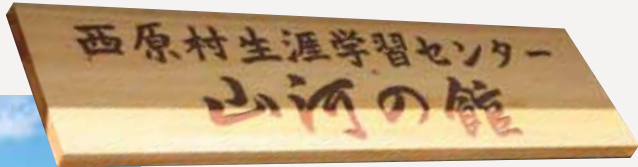


俵山トンネル開通



萌の里開業

平成22年12月落成
生涯学習センター 山河の館



西原村生涯学習センター『山河の館』は、本村社会教育事業の拠点として建設されました。村の歴史資料を展示し、郷土への理解を深めていただき、村民の憩いの場を兼ねた施設です。図書室、大研修室、小会議室の他、和室などがあります。今後『山河の館』の運営にあたっては、定期的な読み聞かせ会をはじめとする各種の企画を行い、本村社会教育の核として、様々なニーズに対応できる生涯学習の施設として活用できます。

平成16年	●田園交流基盤整備事業(阿蘇西麓地区)農道整備68ha ●資源リサイクル環境保全事業 ●風力発電工事着工
平成17年	●家畜排せつ物堆肥施設 堆肥舎3棟 4,900㎡ ●ため池等整備事業(布田地区)ため池整備13ha ●にしはらオーガニックセンター管理運営組合設立 ●風力発電運転開始 ●たんぼハウス開所
平成18年	●白糸の滝交流館「糸舞季(しぶき)」落成 ●八王社遷宮275年祭開催
平成19年	●第1回村内一周ウォーキング開催
平成20年	●西原中学校体育館落成
平成21年	●御法使まつり(瓜生迫地区) ●西原村誌完成
平成22年	●山西小学校給食室落成 ●県営圃場整備事業(布田地区)区画整理22.3ha ●西原村合併50周年記念式典 ●西原村生涯学習センター落成



西原村の誕生

1960(昭和35)年3月9日に役場位置を字西原に決定して協議がすべてまとまり、6月18日に山西村会で、19日に河原村会で満場一致で両村の合併が決まり、新村名「西原村」として9月1日に発足することになった。新村名は、「住民感情の融和及び村民の最も親しみ易い名称として」、旧村名から一字ずつ取って選定した。(「昭和34年8月以降 山西・河原町村合併関係書類」)。

郡は知事裁定で阿蘇郡となった。1960(昭和35)年9月1日、ついに西原村が誕生した。初代村長は荒木三蔵、第1期の村会議員は18名で第2期から16名となる。以来新たな歩みが続けている。(『西原村史』2010年より引用・参照)



荒木三蔵

初代の西原村長を務め、昭和51年9月の退任まで29年間もの長期にわたり村政を担当する。優良町村として全国表彰をはじめ、山西村河原村の合併問題、県道熊本高森線開通など多くの業績を残した。また、最初の西原村名誉村民でもある。



西原夢運太鼓



名誉村民の表彰を受ける山本佐吉元村長

記念すべき合併50周年を迎えるにあたり、平成22年10月3日、西原中学校体育館において「西原村合併50周年記念式典」が行われました。

子どもたちによる西原夢運太鼓の勇壮な演奏で幕を開けた式典では、村長式辞や来賓祝辞、自治功労者の表彰などが行われ、名誉村長には第3代村長の山本佐吉氏が選出されました。

当日は途中から雨模様となりましたが、各地から足を運んでいた来賓の方々や一般の方など多くの方に「出席いただきました。式典後には、おなじみDOYO組のコンサートも行われ、西原村の未来を担う子どもたちと共に楽しいひとときを過ごし、盛会のうちに幕を閉じました。

西原村合併50周年記念式典





村 章 (昭和52年8月27日制定)

「ニシハラ」の「ニ」を図案化し、曲線は村民の柔軟性を表し、白抜きの部分は山・丘・牧場を表し、全体として村民の融和と郷土と共に飛躍していく姿を図案化したものです。

村 花 「野 菊」(忍耐力・生命力)

ノコンギク、ヨメナ、ユウガギク等の野に咲く菊類の総称で、その中でも薄紫のノコンギクが大半を占めています。村内のいたるところに繁殖しており清楚、純粹、野性的で、忍耐力、生命力が強く、北風に吹かれながらも野辺でやさしく香る可憐な花です。



村 木 「どんぐり」(清潔)

一般に“どんぐり”はブナ科のカシ、クヌギ、ナラ等の木の実を指しますが、本村では、特にクヌギの代名詞となっています。山、雑木林、田畑の畦畔等に多く見られ樹高20mにも達します。



村 鳥 「き じ」(情愛)

村内の山林、原野に数多く生息し、一年中観察することができます。まれに畑地に現れることがあります。

きじは、色彩が鮮やかで大変美しく、昔から狩猟の対象として狙われて来たため非常に用心深く、子育てが上手です。「焼野のキギス」のことわざにもあるように、野火に自分の羽は焼かれても子供をしっかりと守るほどで、大変親子の情愛の深い鳥です。日本昔ばなしにも登場し、賢く勇気ある鳥とされています。



西原村民憲章

わたしたち西原村民は

一、豊かな自然を守り、環境をととのえ、
清潔で美しい村を作ります。

一、先祖を敬い、伝統ときまりを守り、
文化をおこし、住みよい村をつくります。

一、健康に気をつけて、幸福で明るい家庭を築き、
体力を練り、勤労に励みます。

一、教育を高め、進んで事にあたり、
創造と個性あふれる村をつくります。

一、お互いに親切さと思いやりをもち、
あいさつと、心豊かな村づくりをします。

西原音頭

作 詞 小 城 要
作 編 曲 岩 代 浩 一

一、阿蘇は朝焼け 鞍岳染めて

仰ぐお空にや 俵山

見せてやりたや 高遊原を

浮かぶ絵姿 春霞くく

囃子 サツサと輪になれ丸くなれ

ドンドン ドドント

ドドントドン丸くなれ

(囃子以下同じ)

二、揃い浴衣の 西原乙女

どれが姉やら 妹やら

踊る手振りに 若衆も惚れて

幼馴染みの 縁結びくく

三、親が築いた 大切畑の

水でうるおす 大耕地

滝の白糸 紅葉にしぶきや

揺れる穂波は 黄金色くく

四、花の空港の 国際空港

飛べば世界も ひとまたぎ

粹な中岳 情けで燃えりや

銀の翼も 夢心地くく



西原村から阿蘇くまもと空港まで車で5分

